

トピックス



大阪市北区天満橋 1-8-75 TEL 050-3160-6763
<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

准フォレスター研修がスタート



将来の目標林型を班ごとに討議（森林施業検討会の様子）

森林・林業の再生に向けた取組を現場レベルで実行していくための牽引者となる人材を日本型フォレスターとして、計画的に育成することとなりました。

近畿中国森林管理局では、全国7ブロックのうちの近畿中国ブロックとして、森林技術センター（岡山県新見市）を研修拠点として、当局管内府県のうち、滋賀県、京都府、大阪府、奈良県、兵庫県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県の計11府県の職員及び国有林野職員を対象に、准フォレスター研修及び林業専用道技術者研修を開催します。

【近畿中国森林管理局】岡山県新見市にある森林技術センターにおいて、7月25日（月）から准フォレスター研修が始まりました。

本研修は、講師から知識や情報を一方的に伝達すると言った研修ではなく、ワークショップや現場での議論など対話型の内容で組み立てられています。

近畿中国森林管理局では、本年中に、前期後期あわせて10日間の研修を3コース開き、合計84名の研修生が参加する予定です。

初日の開講式では、本村裕三近畿中国森林管理局長から、この研修の修了生が森林・林業再生プランの地域の牽引者として活躍していくことへの、激励の挨拶があり、柴田仁新見市副市長からは、今後の日本の森林・林業を支えていく人材を育成する研修が新見市で開催されることへの期待と歓迎の挨拶がありました。

研修生は研修終了後、各地域で准フォレスター活動を開始します。



開講式で挨拶する本村近畿中国森林管理局長



講師の説明を熱心に聞く研修生



森林施業の実行管理演習の様子（班別討議）



2011・国際森林年

スズメバチに注意！ 【アナフィラキシーショック対策】

【総務部 職員厚生課】夏の終わりから秋にかけては、蜂の個体数が増え、巣が大きくなるとともに、攻撃性も高くなります。

また、ハイキングやキャンプ等、一般の方も森林に入る機会が多くなり、ハチに刺される危険が高まる時期です。

刺されないためには、何より巣に接近したり巣を刺激しないことが大切です。ハチの巣を見つけても、いたずらしたり、大声で騒いだり、近づいたりしないようにしましょう。また、体の周りを飛び回るハチがいたら、そばに巣がある可能性があります。ハチを手で払わずに静かに遠ざかるようにしましょう。



木の枝に作ったスズメバチの巣



ハチに刺された時に使用する
携帯用自己注射器（エピペン）

ハチに刺された場合は、速やかに巣から離れ、安全な場所に避難しましょう。清潔な水で刺されたところを冷やし、安静にします。痛み、かゆみ、発赤、はれといった局所症状があらわれるだけの人もいますが、ハチ毒アレルギーの人は、きわめて強い反応（アナフィラキシー）が起こり、嘔吐、寒気、全身のじんましんといった全身症状から、呼吸困難や意識障害などのショック症状があらわれ、時には死に至ることもあります。全身症状があらわれたら、一刻も早く、医師の治療を受ける必要があります。

ちなみに、国有林野事業の職員は、森林で作業するときは自己注射用アドレナリン注射液（エピペン）を携帯しています。一時的にショック症状を緩和させる効果があり、医療機関へ搬送されるまでの症状悪化を防止します。

ともあれ、森林を歩くときは、ハチがいないか、近くにハチの巣がないか、常に注意しましょう。



地域ニュース

森林教室を開催（船上山国有林） ～国際森林年キャンペーン行事～

【鳥取森林管理署】5月31日、東伯郡琴浦町にある船上山少年自然の家の体育館において、鳥取森林管理署の森林インストラクターを含む同署職員3名が、「2011 国際森林年」（国内のテーマ「森を歩く」）にあわせて、米子市立住吉小学校の4学年児童150名と教職員10名、計160名を対象に「船上山国有林は自然がいっぱい」と題した森林教室を開催しました。

前日の雨天により船上山の滝登りの登山のコースがショートコースに変更になり、下山後の空き時間をカリキュラム変更にしたいと森林管理署に依頼があったもので、職員が普段パトロールして観察した自然界の動物たちの痕跡の写真などを中心に、パワーポイントで説明しました。



職員が説明する自然環境について、熱心に耳を傾ける児童達

午前中登山道頂上で行われた、環境省や関係機関を交えたカシナガキクイムシ防止キャンペーン行事の説明や人間が守らないと貴重な自然が失われる旨の説明。

また、カシナガキクイムシ防止に使用した粘着テープに触る子供たちが「おもしろい！」と歓声もあがりました。

参加した児童達は、「森林管理署の人が撮影した海を渡る蝶々の写真で、東北まで行くのに船上山で休憩している事に驚いた、これからも自然の事がいっぱい知りたいです。」とそれぞれ感想がありました。

関連ホームページ

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/tottori/>

「ふれあいの森・釜ヶ峰山森林浴公園」で 森林教室を開催（釜ヶ峰山国有林）

【広島北部森林管理署】広島県庄原市にある釜ヶ峰山国有林内の「ふれあいの森・釜ヶ峰山森林浴公園」で庄原市立口北小学校の児童32名を対象にした森林教室を実施しました。当日は教職員6名、庄原市役所口和支

所広報担当及び株式会社林業新聞社広島支局の記者や釜ヶ峰山振興会代表などが加わり、巨木があるアベマキの林木遺伝資源保存林や、咲き誇るヤマザクラと鶯のきれいな声が響きわたる中で、おいしい空気を吸いながら森林浴を満喫しました。

釜ヶ峰山の神社を再建した杉谷奉賛会長から、神社のことや遺伝資源保存林について、「地域の宝である」ことや、口和支所長代理から地域振興の話があった後、約2時間の森林教室を広島北部森林管理署職員が行いました。



参加者全員で記念撮影

紙芝居等を使って分かり易く説明する職員

パネルによる国有林紹介や創作紙芝居「森からの贈り物」を森林クイズも交えながら児童に披露し、子どもたちの笑顔がはじける中、森林教室を終えました。

その後、児童達は小雨交じりの中、元気に雨具を身に付け、ボランティア団体「びほく森のサポーターズ」の協力により、全員で城跡の展望台へ登山。途中、アベマキ群生林内一の巨木を見学し、児童らは空を見上げてその大きさに驚いたり、友達と手をつないでゴツゴツした幹の大きさを体じゅうで感じとっていました。

関連ホームページ
<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/hirosimahokubu/>



【岡山森林管理署】5月22日、岡山県の東北端に位置する西栗倉村にて、西栗倉村主催の「あわくら温泉まつり」が開催されました。

今年は、夜明け前からの大雨が残るぐずついた天気となってしまいましたが、コンベンションホールに会場を移し、約600人の参加者で賑わいました。

イベント会場では、あわくら太鼓・うらじゃ踊りなどが披露され、西栗倉村民によるヤマメの炭火焼き・ホルモンうどん・カレーといった模擬店もありました。

当署からは4名の職員が、参加者のみなさんに木や森に親しんでもらおうと「木工クラフト」の出店をしました。

コナラ・クヌギ・マテバシイ・スダジイなどさまざまな種類の木の実を目の前にして「あれが良いかな〜」「これが良いかな〜」と、どんぐり達とにらめっこ。子供も大人も時間を忘れて作品作りに熱中しました。

クマ、トトロ、カメなど詳しく作り方を教えなくても、子供たちは黙々と自分で考え、工夫して、見本よりも素敵な世界に一つだけの作品を作り上げていきます。枠にとらわれない、子供たちの発想の豊かさに感心させられてばかりでした。

木も木の実も自然からの頂きもの。まったく同じ形のものはありません。ひとつひとつを眺めながら、子供たちが木や森に興味を持ってくれたらと思います。



時間を忘れて木工クラフト作りをする親子

完成したオリジナルキャラクターの作品

今回、西栗倉村から木の切れ端を高温で燃焼させ、発生したガスを燃料として走る「薪ガス自動車」の紹介があり、参加者から驚きの声があがりました。再生可能な資源の有効利用と今後の活躍が期待されます。

イベントが終わる頃には雨もあがり、雲の隙間から光が差し込み、清々しい気分となった一日となりました。

関連ホームページ
<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/okayama/>

オオダイガハラサンショウウオ現地学習会を開催（大杉谷国有林）

【三重森林管理署】7月11日、三重県教育委員会、環境森林部森林保全室と共同でオオダイガハラサンショウウオ現地学習会を開催しました。



オオダイガハラサンショウウオの生息調査する参加者

オオダイガハラサンショウウオ幼体

三重県多気郡大台町宮川にある大杉谷国有林で行われた同学習会には、署、県の関係者25名が参集し、約2時間生息の確認調査を行い、昨年より18匹も多い幼体44匹の生息確認ができました。

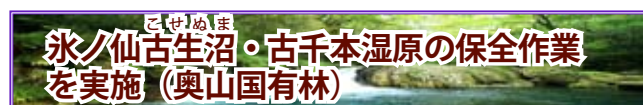
学習会も3回目となり、各人が工夫を凝らした計測道具を持ち寄り、今年初体験の方々に様々なアドバイスをしながら計測を行いました。

残念ながら今年も成体の確認には至りませんでした。が、オオダイガハラサンショウウオが確実に繁殖していることを実感しました。

2年連続で行われた学習会を通じ、治山事業等において生息環境へ配慮した工法へ取り組むことで保護管理に協力していけるよう努力していきます。

関連ホームページ

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/mie/>



【兵庫森林管理署】6月5日、兵庫県養父市に位置する奥山国有林の氷ノ仙古生沼・古千本湿原の保全作業を実施しました。

氷ノ山山頂付近に広がる古生沼・古千本湿原には、貴重な高地植物群落があり、県指定の天然記念物となっていますが、近年ニホンジカの食害により大きな被害を受けています。

そのため、毎年雪融けを待って湿原の周囲を網で囲いニホンジカの侵入を防いでおり、今年も網の張り上げ作業等を南但馬の自然を考える会、兵庫県但馬県民局などと協力して行いました。

引き続き巡視活動等を行いながら湿原の保全に努めていくこととしています。



打ち合わせをした後、湿原周囲にシカ食害防止用ネットを張る参加者

関連ホームページ

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/hyogo/>

お知らせ



3府県との連携による 国際森林年記念行事

近畿中国森林管理局は、平成17年3月に滋賀県、京都府、大阪府と琵琶湖・淀川流域の民有林・国有林が連携して森林環境の保全と整備に取り組む内容の覚

書を取り交わし、森林環境の保全・整備連絡調整会議として毎年様々な活動を続けています。

今年は、国際森林年にちなみ、3府県で市民が参加する「森を歩く」、「森を学ぶ」、「森を語る」、「森をつなぐ」の4つの行事をリレー形式で開催いたします。

第1弾は、「森を歩く」で、7月23日に滋賀県で「びわ湖を支える水源の森林体験ツアー」を行いました。



7月23日行われた「びわ湖を支える水源の森林体験ツアー」の様子

これから開催される第2～4弾までの行事予定

第2弾は、「森を学ぶ」で、8月17日に大阪府でシンポジウム「国産材を利用したヒートアイランド対策」を行います。

第3弾は、「森を語る」で、8月27日に京都府立植物園で野外シンポジウム「森を語る～以森伝心～」を行います。

第4弾は、「森をつなぐ」で10月下旬に万博記念公園内で「未来に向かって、森を活かそう」を行います。

詳細につきましては、下記アドレスよりご覧ください。
<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/pdf/kokusai2.pdf>



森林のギャラリー (局庁舎1階)

【8月の展示スケジュール】

8/1～8/12

kikito biwako no mori (パネル展示)

【kikito 湖東地域材循環システム協議会】

8/15～8/31

「第9回絵画コンクール」入選作品展示

【近畿中国森林管理局】

8/26・29

「森林(もり)のつどい」(展示・絵本の読み語り)

【ピノキオ絵本で遊ぼう会】